

6

1996. 5

薬友会報

千葉大学薬友会



宮木高明杯 (写真 池上文雄)



故 宮木高明先生 (昭和33年 卒業アルバムから)



第一回受賞式

薬友会会長あいさつ	2
退官・新任あいさつ	2・3
特集 (千葉大学薬学部21世紀にむけて)	4~6
「宮木高明杯」はじまる	6
サークル紹介 (薬学茶道部)	6
会員だより	7
研究室紹介	8・9
クラス通信	10~16

支部だより	17
みのはな山岳会・亥鼻会	17
池田仁三郎先生のご逝去を悼む	18
卒業生の進路・薬学部入学者出身校別	18
一覧	18
職員の異動	18
薬友会より	19
生涯教育セミナーおよび	19
協会のお知らせ	20



昨年学部長に就任して以来、薬友会の各支部の会合に招かれ、会員の皆様に親しくお会いする機会を得ましたが、薬友会を支えておられる諸先輩は常日頃千葉薬のことを心に懸けておられることを知り、心強く思い、誠に有難いことと感謝しております。どの会合でも、薬学部の将来、特に薬剤師の教育とその身分、社会的役割について、誠に熱心な議論が交わされました。社会的な要請として、医療に貢献する薬剤師の在り方について、すでに社会で活躍されている薬剤師の方々は大学の果たすべき役割について強い関心を示され、鋭い質問を受けました。このような関心の高さは私共にとって誠に有難いことであります。

本学部では昨年に引き続き、大学院の独立専攻として、医療薬学専攻を新設するための概算要求を進めております。この新しい専攻が出来ますと、医療薬学分野を支える研究・教育組織の中核が薬学部生まれ、今後の社会的要請に対応する準備が整います。わが国の薬学は欧米に較べると、この分野での蓄積は殆どゼロに等しく、目に見えるような成果が上がるには些かの時間が必要と思いますが、社会の動きに遅れる事なく、対処していきます。また、いわゆる卒後教育の一環として、当学部では様々な講演会、勉強会などを企画しますので、諸先輩の積極的なご参加をお願い致します。これからは以前にも増して大学が皆様のお役に立つように努力したいと考えております。

千葉薬はすでに100年を超す歴史を持っていますが、戦後新制大学の薬学部として発足して50周年を迎えることとなります。千葉大学として様々な記念行事が考えられていますが、薬学部としても21世紀に向かう一つの区切りと捕えています。記念行事につきましては、薬友会の皆様の絶大なご協力を賜わりたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

退官に際して

生化学研究室

廣瀬 聖雄



昭和36年5月に生化学教室の助教授として採用になって以来、34年間の永きにわたり薬学部教官として勤務させていただき、このたび停年退官を迎え得ますことは、ひとえに学部内でごいっしょさせていただいた皆様はもとより、学内外の多くの方々の暖かい御指導・御支援によるものであり、心から感謝申し上げます。

34年間を振り返りますとき、数々の懐かしい思い出がよみがえりますが、私にとりまして薬友会とのつながりで思い出す最大のものは、平成元年7月8日に行われました千葉大学薬学部創立百周年記念式典・祝賀会と同年11月に完成しました百周年記念館であります。私は平成元年5月に薬学部長を拝命し、通常でも学部長の職務を全うするのは大変なのに、よりによって百年に一度の年に巡り合うとはと天を仰ぐ思いでしたが、逃げる訳にも行きません。ひたすら同窓会ならびに薬学部の諸先輩が進めて来られた方針を忠実に実現すべく、人の和を最も大切に努力した様に思います。結果は大成功で、岩城謙太郎記念事業後援会会長、藤沢栄一同会事務局長、茂木武男同会募金委員長はじめ同窓会の皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

百周年を契機に同窓会の皆様と薬学部教官との絆が大きく深まり、千葉大学薬友会へと発展し、現在大変活発な活動が進められている事は誠に嬉しく存じます。そして退官後も薬友会会員であり得る事を幸福に存じます。

薬友会の益々の御発展と会員の皆様の御多幸をお祈り申し上げます。

薬物学研究室

佐藤 哲男



私は、昭和41年4月より50年3月まで、当時、習志野にありました千葉大学腐敗研究所（現真核微生物研究センター）に勤務し、同年4月より、大学時代の恩師の故北川晴雄教授が主宰する薬物学教室に助教授として赴任しました。研究所時代は自分のペースで研究に専念するだけでよかったのですが、学部では、研究に加えて学生の教育が大きなウェイトを占めました。その意味で、試行錯誤の毎日は、同じ大学教官としての生活のパターンを大きく

変えました。その様な環境の変化に苦慮している私にとって、多くの先輩や同僚の諸先生、ならびに事務室の皆様のご助言は大きな支えとなりました。ここに改めて厚く御礼申し上げます。また、2年間の大学評議員の役職として薬友会副会長を命ぜられ、その職を通して卒業生の皆様と接する機会が得られましたことは、私の生涯にとって貴重な財産となりました。多くの学生との出会いも、今になって考えると懐かしい思い出だけが残ります。私事で恐縮ですが、私の父は昭和4年に千葉医大附属薬学専門部（本学部の前身）を卒業しましたので、100年を越す輝かしい伝統の中で、親子二代にわたって本学部の空気を享受できたことは大いなる誇りであります。21世紀に向けての薬学教育は、正に前代未聞の激動期に直面しております。その中で、我が薬学部は常に先頭に立って着実に邁進されることを心より祈念致します。

副学長就任に際して



微生物薬品化学研究室

澤井 哲夫（昭和37年卒）

間もなく創立五十周年を迎える千葉大学は、約14,000名の学生が学ぶ総合大学に成長しました。この大きな組織を円滑に運営するため、本年度は幾つかの機構改革が行われ、その一つとして副学長制度が導入されました。心理学を専門とする野口薫教授と私が選出されましたが、その役目は緑の下の方の力持ちに徹して学長を補佐することと考えています。教養部解体は一段落しましたが、まだまだその後遺症が残っています。また、学部の移転も含む千葉大学の再統合構想も浮上しております。平成10年夏の任期終了までには、苦勞が多いことと覚悟していますが、副学長制度の初代ですので、この職の鼎の軽重を問われぬよう努力致します。

新任教授紹介



薬化学研究室

濱田 康正

（昭和48年富山大学薬学部卒業、昭和50年東京大学大学院修士課程修了）

平成7年9月1日付で名古屋市立大学薬学部から赴任し、当研究室を担当させていただくことになりました。先代坂井先生の後任という身に余る光栄に身の引き締まる思いをしております。坂井先生のスタッフと学生は生体機能性分子研究室に移られ、今まで同様活発に研究されております。この様な訳で薬化学は私一人で新たな出発となりました。現在、1月に原修講師が名大農学部から加わり2名ですが、4月から教員1名、学生6名が加わる予定で、研究体制が整います。研究は高効率分子変換法の開発と有用天然有機化合物合成への応用に重点をおいて進めたいと思っています。新しい手法の開発と応用研究を通して創造性を発揮する場を造り、有機化学の実力を備えた人材を育てたいと考えています。薬学部がさらに発展するように微力ではありますが、努力して行きたいと思いますので、薬友会の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



退官記念祝賀会（平成8年2月16日）



千葉大学薬学部21世紀にむけて —国際化の現状—



国際交流の日常化

千葉大学薬学部教授 鈴木 和夫

(薬学部国際交流委員長)

これまで国際交流といえば教官を中心とした欧米への留学や研究集会への参加、あるいは先進国との共同研究であった。最近では、欧米先進国の研究者や学生を相互主義に基づいて受け入れるという質的变化と、発展途上国との交流の拡大という量的変化となり、制度と設備の両面から受入れ体制を整備するのに忙しい状況である。

研究者の交流では国立大学の設備が粗末で恥ずかしい思いをすることも多いが、発展途上国からの来訪者が増えている。学生の国際交流に関しては、学期制などの制度面の違いに加え、単位の相互認定や授業料の相互不徴収など、各大学と個別に解決すべき問題も多く、受入れ学生の生活を支える施設や制度の整備も急がれている。

千葉大学では大学間協定や学部間協定締結のための手続きが簡素化され、学部の自主性を重んじた制度面の改善が行われている。これらに基づいて、薬学部ではこれまでのアルバータ大学薬学部およびチュラロンコン大学薬学部に加え、新たにチェンマイ大学薬学部および中国薬科大学薬学院との学部間協定を結んだ(写真は協定書調印の模様)。

薬学部では大学院生を中心とした学生の交流を前提としているが、中国、タイをはじめとする国々からの受け入れが増えている。教官に関しては海外出張を国内出張と区別する必要がない時期に来ていると思われる。米国の大学のよう国際交流とわざわざ言わないですむほどに日常化するのにはもう少し時間がかかりそうである。



留学経験から国際化の現状と在り方：若い人へのメッセージ

千葉大学薬学部助教授 笈川 節子(昭和45年卒)

昨年在外研究の機会を与えられ、アメリカ8ヵ月、オーストラリア・イタリア各1ヵ月、3ヵ所の大学・研究所を巡ってきました。国際化=人や文化が国境を越えて行き交うことから始まり、物・資本・情報(知識)の自由化(流動化)が起こることと考えますと、アメリカは世界各地から留学生が集まっており最も進んでいると感じました。その点ヨーロッパは、日本が近隣のアジア諸国からの留学生が多いのと同じで、ヨーロッパ内からの留学生が多く居ました。社会生活でもヨーロッパはまだ言葉の壁があり、政治・経済が共通になっても言葉は最後まで残る固有文化のあかしのようでした。しかし研究機関ではいづこも英語が共通語で、学生を含め討論・発表は英語で行うのは当然でした。国際化の第一歩は自分の考えを明確に国際共通語の英語で表現し、対等に会話(議論)する所から生まれると思います。この対等ということは特に重要な点で、話す内容を豊かにし互いに give and take の関係にならないと、対等の仲間とは認められません。もう1つ重要な点は個人の評価基準です。日本では組織にいかに関与したかで個人としての価値も決まると考える所がありますが、欧米では別の次元で考えます。None of Your Business という言葉通り、仕事を離れば個人は全く対等で自己の責任で行動し互いに干渉しないことが原則です。欧米と共通基盤で発想し自由競争していくには、我々の意識変革は避けられない課題だと感じました。

(写真は、米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校近くの Twin Peaks にて撮ったものです。)



研究室のメンバーと

留学を終えて

千葉大学薬学部助教授 戸井田敏彦（昭和53年卒）

私が留学したアイオワ大学薬学部は、4年制と6年制の2種のコースが併設されており、卒業するとそれぞれ“Pharmacist”、“Doctor of Pharmacy”の資格が与えられます。6年制最後の2年は、すべて病院実習に費やされ、臨床医と対等に医療に取り組める人材の養成期間として機能しています。

一方、薬学系大学院は薬学部出身者が占める割合は少なく、95%が他学部出身です。薬剤師としての社会的地位が驚くほど高い合衆国の現状を考えると、この割合は当然でしょうか。また約半数が留学生で、彼等が研究に打ち込める奨学金制度がよく整備されており、3年から5年のうちに博士の学位を取得することができます。ただし途中で挫折する場合も多いようで、ある学生が指導教官から奨学金のカットを申し渡される場面にも遭遇しました。しかしながら誰にでも公平に機会を与えることのできるアメリカ合衆国の懐の深さ、また何事にもこうあるべきとの確固たる信念を持った彼等の姿勢は、私たち日本人が見習うべき点かもしれません。今回のテーマである“国際化”は一面多様化の容認を意味するでしょうし、もし確固たる信念を持たずして国際化を望むと、混乱することは目に見えています。

国の成り立ちが全く異なる故でしょうか、滞米中一度も“国際化”という意味の言葉を耳にしませんでした。いつの日か“国際化”を意識することなく研究に、教育に携わりたいと願っています。



製薬産業界からの期待

三共株式会社研究開発推進部 武藤 明臣（昭和33年卒）

三共に入社し、新製品企画部門に従事していたころふと目にした資料があります。30年以上も前のことであり詳しくは覚えていませんが、「米国で販売されている医薬品」の一覧表でした。500余種ある中に日本産の医薬品として2つだけ記載されていたことを今でも覚えています。カナマイシンとコリスチンでした。それから30数年を経た今日、日本産の新薬で世界中で上市され、医療の向上に役立っている薬品は枚挙にいとまがありません。38年に及ぶ三共在籍中、前半の20年は“いかに魅力ある新薬を外国からいち早く導入するか”という時代でした。そして後半は“日本産の新薬を求めての外国来訪客をいかに応接するか”、そして“日本産の新薬を自ら国外でいかに開発し上市に結びつけるか”という時代になって来ています。かかる変化は昭和42年に発表された「基本方針」を始めとする数々の厚生省通達により新薬の許認可についてのレベルアップがなされたこと、昭和51年の特許法の校正により魅力ある新薬を自ら作り上げる欲求が高まったこと、また最近な例としては薬学教育が化学系一辺倒から生物系との共存になり、製薬企業内での生物系研究者の活躍の場が増えたこと、等があげられましょう。本来医薬品は知的集約産業であり、日本向けの産業の苦です。世界に通じる新薬の数が増えたとはいえ未だ揺籃期を脱したところですが。今後の尚一層の飛躍に向けて若い頭脳と活力に大いに期待するところでもあります。



“Mediterranean View Points”

DERBEL MAHER (博士後期課程)

私はチュニジアの薬剤師課程を得たのち、1989年10月文部省留学生奨学金で日本に来ました。つくば大学で6ヶ月間日本語を研修したのち、少し日本語を話せるようになり、現在は千葉大学薬学部薬学研究室に所属しています。6年半たった今、たくさんの友人ができ、その半分は日本人ですが、モロッコ、フランス、エジプト、フィンランド、USAなどいろいろな国の人がいます。

日本にいる間、日本の文化、例えばお茶会、生け花、能、祭など楽しみました。特に、青森のねぶた祭が一番楽しかったです。

日本について最も興味をひかれたことは、日本人が世界中の他の国の人と違う、そしてユニークだと勝手に思っていることです。例えば、日本のことは日本人にしか理解できないと思っているようです。そのためか、日常会話によく、“NIHONJIN”という言葉が耳にします。チュニジアはもちろん文化や習慣は違いますが、会話の中で“チュニジア人”という言葉はあまり使いません。更に、私に不思議に聞こえる言葉として“gambarimasu”とか“yappari”などがあります。例えば、遊んでいて“gambarimasu”を使うのはおかしいし、おすもうを楽しみにしているのに勝ったおすもうさんのインタビューでは“gambarimasu”しかいいません。また、パーティーなどのときに「チュニジアは魚の多い国だから“yappari”いかとかたことかは食べれるの？」と質問されます。自分たちのことをユニークだと思えば、国際化にバリアを作ってしまう。



薬学の課題

千葉大学RIセンター助手 邱 国 寧 (平成5年 博士後期課程修了)

これから薬学の存続にかかわる重要な問題として、他の学問や専門分野との区別をはっきりし、実際問題の解決できる薬学専門家の養成ができるか否かにあると思う。日本の薬学教育もこのような激変の時代に巻き込まれている。改革を進め、不合理な点を取り除き、薬学本来の姿、薬学らしい学問に取り戻す必要がある。また、更に国際化、情報化へと進む21世紀に合わせ、世界一体の薬学教育の普及や交流は欠かせないもの。国際化には各国の事情を積極的に取り入れなければならない。各国の薬に関する法律及び規制の改正や修正等の動きの把握；地域差や個人差等の研究；また、全人類の財産として規範化の推進もこれからの課題であろうと思う。



「宮木高明杯」はじまる

薬学部学生・教職員の親睦をスポーツなどを通じて深めることを目的として「宮木高明杯」が設けられました。故宮木高明教授の御遺族から本学部の振興のため多額の御寄付を頂いております。宮木先生は生前から、薬学部の文武両道に渡っての発展を願われており、すでに毎年「千葉大学薬友会生涯教育セミナー（宮木高明記念セミナー）」が開催されております。（P20をご覧ください）

「宮木高明杯」の第1回として、今回は毎年恒例の研究室対抗バレーボール大会が受賞の対象となり、見事に薬学研究室の手中に納められました。



サークル紹介 日頃の忙しさを忘れて…「薬学茶道部」

茶道には「固苦しい」というイメージがあります。事実、入部した当初は随分とまどいも覚えました。しかし、お点前の手順の一つ一つにも意味があり、言葉を用いずに様々な事を表現しているのだと、分かってくるようになりました。少しづつしか前に進めない私達ですが、先生は優しく見守って下さいます。

毎日の、化学式と英語の飛びかう授業とはまるで違う茶の湯の世界。その世界を極めようと、毎週金曜日の午後5時から7時、講堂2階の和室で活動中です。一緒に奥の深い茶道を楽しみませんか。勿論、初心者大歓迎です。興味のある人はどんどん来て下さい。おいしい和菓子と熱いお茶を用意してお待ちしています。

(文責 杉山光代)

Shall we ダンス？

百周年記念館でのダンスパーティー

藤沢 栄一 (昭和13年卒)

私は平成3年12月オーストリー旅行の途中ウィーンのエルマイヤーダンス学校で、エルマイヤー教授からウイナワルツの特別講習を受け修了証書を受領した。

山崎前葉友会長その他からウイナワルツの踊りを一度見せて欲しいと云われ、「それではダンスパーティーを開催して頂ければ披露します」と云った冗談が本気になり平成7年6月3日百周年記念館で、ダンスパーティーが開催されることになった。しかし薬学部関係では、ダンスパーティーは初めてだし、若い人はディスコ、カラオケなどで、ソーシャルダンスに興味は薄く、人が集まるかどうか不安があった。しかし開催者の熱意が実を結び、会場は満席となってホッとした。

臥豚寮で学生時代よくダンスを踊ったという大川幸子さん(昭32卒)に司会をお願いし、次いで当日急用で欠席となった山崎教授の代わりに、敵本葉友会長の挨拶があり、私から世界と日本のダンスの歴史、ダンスの種類について簡単な解説をし、パートナーの東京から来て貰った平美恵子さんが紹介された。次いでダンスが初めての方を対象に、ブルースの初歩を指導した。スリッパを履いたままの人も居り和気あいあいの気分で盛り上がった。私は、ウイナワルツについての解説のあと平さんと「美しき蒼きドナウ」「南国のバラ」の2曲を踊った。ウイナワルツは、普通のワルツの倍の速さで右に左に早く回転する踊りで、女性のロングドレスが広がりながら回転するので真に美しい。次いでディスコの曲、フリーダンスの曲で希望者が踊った。更にソプラノ歌手の嶋崎裕美さんの独唱があり、映画「会議は踊る」中の「ただ一度の恋」をドイツ語で、メリーウイドウワルツを日本語で歌われ、その美声に一同感嘆した。メリーウイドウワルツの時は、私はウイナワルツを踊った。漸く定刻に近づいたので、ブルースの復習やフリーダンスでお開きにした。2時間半を楽しく過ごせて有意義であった。ここに最後までおつき合い頂いた敵本葉友会長や準備に骨を折って頂いた方々に厚く御礼申し上げる。



ウイナワルツを踊る
藤沢 栄一



ブルースの練習

心 の 世 界

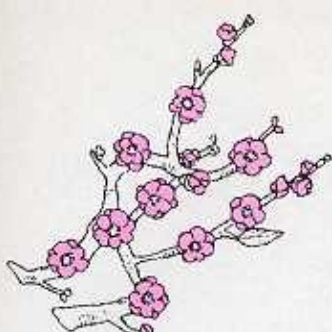
岸田 一雄 (昭和53年卒 真如苑)



現在の大学構内、西千葉駅の変貌に、卒後の年月を数えては、只々驚いております。驚くと言えば、昨年から今年にかけて、心の専門家とも言える宗教家や宗教団体によって大変な出来事が幾つも引き起こされました。宗教に携わらせて頂いている一人として自らのあり方を矯正さずにはいられない思いがいたします。心は人を、仏にも鬼にも変えると申します。物の見方、考え方一つで楽しくも苦しくなる事、本来持っている自分の宝を100%発揮し得るか否かを左右される事を、少しずつ実感としてわからせて頂いております。薬学を学び、直接・間接

を問わず多くの人々の役に立つ仕事に従事されている事は本当に素晴らしいと思います。この「人の為に役に立つ仕事」という事をどうか忘れずに取り組んで頂きたいと願っております。苦しい事、辛い事など、様々な場に遭遇した時、それはきっと乗り越える原動力になることと信じます。

合 掌



研究室紹介

生体機能性分子研究室



当研究室は、平成6年6月、学部附属センターとして初めて設置された薬学部附属薬用資源教育研究センターの一研究室としてスタートいたしました。現在は、相見則郎教授、高山廣光助教授、北島満里子助手の3人のスタッフと学部学生、大学院前期・後期課程の計13人の学生で成り立っています。

現在進めている研究テーマは、次のようなものです。

- (1) 天然に存在する薬用資源植物から創薬素材分子となる新規生体機能性分子を探索し、その構造を解明します。研究対象は我が国のみならず東南アジアの薬用植物にも及び、タイ、マレーシア等との共同研究を行っています。
- (2) 有機化学的並びに薬理学的に興味深い天然有機化合物を合成標的化合物として設定し、その効率的な合成法の開拓や、容易に入手可能な天然素材分子から絶対立体化学を制御した化学変換を行います。
- (3) 対象としている植物には有用な希少植物も含まれており、天然遺伝子資源の保護と持続可能な利用の意味を含めて、この貴重な資源植物の細胞培養を行い、その2次代謝産物の解明を行っています。

このようにして得られた化合物は、共同研究者による生物活性評価に供され、それによりさらなる高機能性分子の分子設計と化学合成を行います。

以上のようなテーマについて最新の機器や技術を駆使してより良い結果を目指し皆で毎日がんばっています。

(北島満里子)

薬品分析化学研究室



当研究室は、初代坂口武一教授の後をうけて、1979年に金沢大学薬学部より今成登志男教授が着任されてから17年目を迎えました。その間、数多く卒業実習生、大学院博士前期・後期課程の学生が巣立ち、それぞれ薬に関わる幅広い分野で活躍しています。

何が、どこに、どれだけあるかを明らかにすることを目的とする分析化学は、自然科学のあらゆる分野に共通する学問領域の一つです。薬学領域に限ってみれば、生体を構築する成分、あるいは広い意味での薬の定性・定量を行うための方法論を追求することによって、創薬あるいは医療の分野にまで貢献することが理想です。現在、この理想を追い求めて今成教授を含め4名のスタッフ、中華人民共和国からの留学生1名を含む大学院生5名と、5名の卒業実習生が一丸となって日夜研究に励んでいます。

現在、当研究室ではヒトの健康に深く関わる重要な物質であることは認識されつつも、分析法がないためにおざなりにされている、いわゆる細胞の分化、成長などに関わる物質を取り上げて研究を進めています。具体的には細胞外マトリックスを構成するコラーゲン、それに結合したプロテオグリカン、細胞を刺激する無機質などを対象に研究を進めています。これらの研究成果が実際に私たちの生活にいかされるまでには、まだまだ多くの時間と努力が必要であるとは思いますが、いつの日か必ず貢献できるものと信じています。

到来しつつある高齢化社会を見据え、ヒトがいかに質の高い健康な生活を維持できるか、薬学、あるいは分析化学という学問領域を通じて少しでも寄与することが私たちの願いです。

(戸井田敏彦)

臨床化学研究室



臨床化学研究室は、昭和62年4月に生物活性研究所から薬学部所属となった、比較的若い研究室です。西千葉キャンパスへの移転当時は新築ビカビカの部屋（4号館）でしたが、だんだん汚くなり、水漏れも起こるようになってしまいました（激しい研究活動のゆえんでしょう）。現在（平成8年2月）の人員構成ですが、五十嵐教授、小林助教授、柿沼助手、柏木助手の4職員に、博士後期課程2名、前期課程6名、4年生4名、それに留学生2名の合計18名となっています。最近ではイタリアのボローニャ大学理学部との共同研究の関係で長期・短期合わせて4人の陽気なイタリア人が出入りしていました。そのため休憩時には本場のエスプレッソの香りが立ちこめる、オシャレなラテン系(?)ラボといった雰囲気になりました。今後も様々な国からやってくる予定なので、学生はいつも英語でおしゃべりしています（一部大喧嘩）。研究内容としては、ポリアミンの生理作用の解明、及びイオン輸送系の研究を生物化学・分子生物学の方法で行っています。現在一番ホットなテーマは、記憶形成に重要な役割をするNMDAレセプターのポリアミンによる活性調節機構の解明であり、抗痴呆薬になるポリアミン誘導体の開発をめざしています。また、バリバリ実験するので、泣く子も黙る(?)臨床化学という評判ですが、それに惑わされない、やる気のある個性的な学生ばかり集まっています。そのため、impact factorの大きい雑誌へガンガン投稿すべく、日々野心的に実験をする気風がみなぎっています（多分）。

（福地 準一）

衛生化学研究室



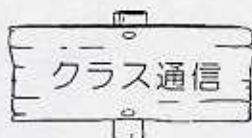
1991年に故山根靖弘教授が停年退官後、1992年に鈴木和夫教授が着任し、吹野秀也助手が退職したことにより、現在は坂井和男助教授、小泉利明助手との3人のスタッフと、大学院生を中心とした研究室の構成となっている。

3年間にわたる研究室の改造によって、居室領域を実験室から分離し、デスクワークの空間を広げる一方で、ベンチワークについては実験器具から実験スペースまで全て共通化するなど様々な変化がもたらされた。

研究対象は、生体に必須な銅やセレンから有害なカドミウムや水銀まで、一般に微量金属と分類される多くの金属と生体との関わりを解き明かすことを目指している。先天性銅代謝異常症であるウィルソン病のモデル動物LECラットを用いた研究では、肺炎発症機構、銅酵素への銅の選択的供給機構、銅の選択的な除去による治療法の開発など、多くの成果をあげた。セレンについては、HPLCの検出器としてICP-MSを用いることにより生体内における代謝機構を次々と解明しつつあり、所要量に対する特異的な指標を開発すると同時に、水銀との相互作用による毒性軽減機構に迫るなど、新たな手法に基づく成果をあげている。さらに、微量金属による細胞内pHの攪乱に関する研究に至るまで、生体による制御機構に関する研究が進行中である。

海外で開催される国際学会への学生の参加、国外からの研究者の受け入れなどが増える一方で、最近の3年間の研究室旅行ではハワイ、ソウル、ブーケットと海外を訪れるなど行動範囲も広がっている。

（鈴木 和夫）



昭和3年卒業 (思葉会)

卒業生43名中物故者38名で、残る現存者の中でも、稀に見る元気者の酒井勇太郎君は今以って日生化学工業所の経営中で一同から刮目されていた。その彼が想出も新たな阪神大震災の中心地である芦屋市の罹災者となった。去るS60. 4. 29、久方振りで東京都内での顔合わせには、遠隔者は岡山の歳森君と彼とで10名の参加があり、尽きない昔をしのんだのが遠比間のような気がする。

8/4 芦屋市長宛安否確認の書面を提出しました。それに対しての返答送付書に「個人の方の問合わせは住民票の発行を以てお答えしております。酒井様については健在ですが住所は変わっておらず実際のところは残念ながら分かりません。」との事でした。

彼の健在を一重に祈念して止まない。

(90歳 丹野雅道)

昭和5年卒業 (五葉会)

昭和5年卒五葉会会員は平成7年3月現在で19名。最近のクラス会は次の通り開催した。

日時 平成7年5月15日正午

会場 新宿ルミネ一号館7階「豊」

出席者 梅田、寺島、石田、川口、河村、森島6名
特別変わった話題は無いが当時物騒なサリン事件などが話題になった。午後3時30分解散。

平成8年度も開催予定。

(石田 新)

昭和8年卒業 (八千葉会)

葉友会の事について、いつも御世話をいたしておりますことを深謝いたします。恒例の八千葉会の集いは平成7年6月10日から二泊三日の箱根仙石原で天候に恵まれた会合でした。家族会員のご協力によって昨

年と同じ10名の出席を得ました。観光旅行というよりも、お互いの健康を確かめながら昔の事などを語り合っただけの健勝を祈り、来年の当番幹事さんと会場をきめることにしています。(前納 勇)



昭和9年卒業 (昭九会)

平成7年の阪神の大震災で渡辺昇君が被災されたが、ご無事であったのは何よりと思っている。今年も亦一人の級友の死に会った。名古屋の森専造君である。歳八十を越えると友の訃報を聞くのは誠に心細い。

クラス会を今年こそ、今年こそと思っているのだが、なかなか思うようには行かず、平成7年も開かないで終わってしまった。

なんとか今年こそは実現しようと心を新たにしている次第である。

今年の届けられた賀状の中に「また会う日をベットの上で空想している。」と添え書きされた一通が級友の中にある。

お互いに酒の飲める中に、歩ける中に何度でも何度でも会いたいものである。(中村晃蔵)

昭和10年卒業 (十千葉会)

現在会員数22名、葉業界に關係する者約10名80歳を越えて元気に頑張っているクラスです。

昨年までは年1回、家族同伴で1泊旅行で旧交を温めておりましたが、健康的な面も考えて、平成7年は東京の日本橋クラブで昼食をとりながら歓談して有効な1日を過ごしました。参加者10名でした。今後は文通を主体にし年1回の昼食会を東京か東京近辺で開催したいと計画しております。(若林元光)

昭和11年卒業 (土葉会)

昨年末に、平成7年度の葉友会の名簿が届いた。

イワキ株式会社 岩城製薬株式会社

取締役会長 岩 城 謙太郎
(昭和15年卒)

〒103 東京都中央区日本橋本町4-8-2

人々の健康と幸福に奉仕する



シオノギ製薬

大阪市中央区道修町3-1-8 5F

前回平成3年度の名簿と比べて見たら前回の士業会の生存者は26人で物故者は24人であったが、今回は生存者が21人で物故者が29人であった。そこで今年は生存者全員の近況を知るために20人全員にその旨を書いて年賀状を出した(私は除く)。18人から返信があったが川崎の柏木君と小田原の外郎(旧内田)君よりは返信が来ないので2人だけ電話を試みた。柏木君は本人が出たが病中だと言う。内田君は何回かけても呼び出しはしているが遂に出なかった。他の生存者18人中健常者は8人位で10人は生存は確認出来たが何れも病氣療養中である。昭和10年から26年までの旧業専のOB会交際会も昨年より休ませていただき山口君、吉岡君と協力して上野で会合した。

ウーロン茶で乾杯し軽食をしてから上野公園を散策し森林浴を楽しみ旧交を温めているのが現状である。
(大河原五郎)

昭和13年卒業(亥丘会)

1. 平成7年10月8日に在京クラス会を開催。その際泉幹事の健康に不安があるので、今後は泉、藤沢の2幹事で会の運営に当たることになった。
1. 「亥丘会会員近況集」を作成する事になり、泉、藤沢が編集に当たり、殆ど全員の投稿の下に完成、12月下旬に全員に送付した。
1. 編集の途中、石岡憲司君が11月28日、森居久次君が12月6日に相次いで逝去された、御冥福を祈る。
1. 卒業生54名中、物故者は25名に達し、住所不明2名、住所の判明している生存者は27名である。
その中病弱者が可成り多く含まれ、健康の大切さが身にしみる。
(藤沢栄一)

昭和14年卒

毎年1回のクラス会を行っています、本年は11月竹芝のアジュール竹芝ホテル最上階の展望レストランで東京湾を一望のもとに行いました。
終了後開通したばかりの臨海副都心の交通機関“ゆりかもめ”で副都心をひとめぐりした。一面未開発の埋立地にいくつかの大きなビルや国際展示場、いずれ

も未稼働です。ただ、ゆりかもめは物見高い東京人が観光用に利用して結構繁昌しています。(飯野、小山)

昭和15年卒業(二六会)

昨年10月29日、横浜みなとみらい21を見学(有志)したあと、鶴見の翠華楼で二六会を開催した。出席者10名だったが、55年ぶりの森本君、15年ぶりの入山君、6年ぶりの神戸君の出席を得た。記念写真は欠席者へも郵送して喜ばれた。当夜の寄せ書きで、森本君「今浦島の心境で出席し、諸君の元気な顔を見て本当に嬉しい」一方、橋本君ほか数名は「森本君、入山君には卒業以来始めて」といった具合で懐かしい一夜になった。
(石丸正美)

昭和16年3月卒業(一葉会)

平成7年の回顧
4月10日クラス会開く。大阪箕面の“みのお荘”にて、7名出席。在阪の大石秀男君の尽力による。
11月3日海老根誠治君(前埼玉大学、前埼玉工業大学教授)勲3等旭日中綬章を戴く。お目出度うございます。
訃報 1月29日 鈴木 守君
9月2日 元山 正君
12月26日 渡辺 敏郎君
以上の3君が逝去されました。まことに残念。ご冥福を祈ります。
尚現在 滝本友信君が病氣療養中。
本年も場所は未定ですが、一泊にて会合を、予定しております。お元気で。
(向井廣澄)

昭和16年12月卒業(宣業会)

卒業以来55年経過し23名が健在です。
昨年も10月17日に日本橋で昼間のクラス会を開き、珍しい顔ぶれの林知夫君を加え、古山、国友、海東、塚原、縄田、君塚、大瀬、西口、安田の10名出席。悪運



いのち、ふくらまそう。

第一製薬株式会社

東京都中央区日本橋三丁目14番10号

武田薬品工業株式会社

本社
〒541 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
東京本社
〒103 東京都中央区日本橋二丁目12番10号

(?)が強いせいか皆さる元気で、クラス会で鋭気を養って21世紀に挑戦する気構えです。今年もクラス会を開きますから、ぜひ出席して下さい。どうか健康でお元気で、
(安田英夫)

昭和17年9月卒業(翠葉会)

去る6月クラス会を高田馬場「大都会」で開催しました。昨年より日曜開催にしています。今回は12名出席、常連の雨宮君杉山君が病欠欠席は残念でした。薬局製剤の大家中嶋君が研究を公表して感銘を与え、会は盛会でした。終戦50周年の記念に「8月15日あなたはどこにいたか」の質問を送り投稿集を作り配布しました。生還できてよかったと思うと共に戦没級友に哀惜の情の切なるを感じます。

今年も6月に翠葉会を開催する予定です。(堤保二郎)

昭和19年9月卒業(がまのぼ会)

昨年名簿を新しく作成する為、調査を頼まれました。旧い名簿の原稿の中に、新しく物故同級生の名前を入れる時の悲しさ。

音信不通の同級生と連絡がついた時の嬉しい事、卒業以来50年も経つと色々と考えさせられる事が多くなります。

これからは連絡のある同級生と増々親交を深めたいと思っています。

しかしこの名簿の最後の幕を誰が閉じるのか今から心配です。
(神取喜雄)

昭和20年卒業(るつぽ会)

平成7年度は、丁度卒業50周年に当たりましたので、田村統司君の幹事で、7月9日(日)に千葉駅に集合、ポートタワー〜亥鼻が丘(旧校舎跡地)〜千葉城〜大和橋などを散策、50年前の思い出に耽りました。夜は駅前の東天紅(22F)にて卒業以来最高の下記19名の参加で盛大なクラス会が出来ました。田村、原、細川、坂本、山田(精)、鈴木、金子、大谷、中川、横田、西川、山本、川島、渡辺、水橋、玉木、吉田、当山、岡部の面々です。平成8年度は、定例クラス会を、6

月15日(土)、上野「ホールイ」にて、又、海外特別クラス会は、7月17日出発にて「桂林・広州」の旅を計画致して居ります。
(原文男)

昭和23年卒業

毎年恒例になった同期会を平成6年11月19日(土)に新橋「新橋亭新館」で開催した。北は山形、西は名古屋、大阪よりの参加者を含め20名の出席を得て、会は大いに盛り上がり予定時間を遙に越えて楽しく過ごすことが出来た。未だ飲み足りない連中は、渡部君の世話で神楽坂に繰り込み夜半迄氣勢をあげた。

「出席者氏名」

青柳舜三、井上富夫、植草茂男、海野弘文、大沢祥弘、大塚亨、大割一郎、岡田次男、鹿島明、片岡光明、菅場忠一郎、杉本圭之助、中西安治、芳賀功、原田忠明、古橋隆広、三浦清、安井恒男、吉川貴司、渡部吉郎。

案内状に対する返信を見ると、欠席理由に以前は社用、所用が多かったが、最近は病気治療や体調不良が増加している。「古希」も近いこと故健康に充分留意され、今年の同期会には是非共会員の出席を願っている。

最後に前記会合に元気な姿を見せていた大沢君が、平成7年10月に逝去された事を謹んでお知らせ致します。
(三浦 清)

昭和24年卒業

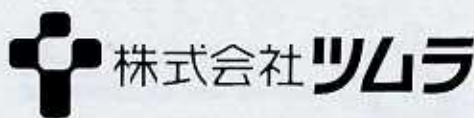
久しぶりに「いのはな」キャンパスを訪ねた。勿論旧校舎跡は全くその名残を止めず全部駐車場である。連絡道路に出ると両側には桜の並木、その向こうに新付属病院がみえる。シーズンともなれば青空をバックにその白い建物と満開の桜が素晴らしい調和を見せることだろう。そんな情景を想像し乍ら病院前よりバスに乗って帰って来た。〜毎年やっているクラス会、昨年は日本橋「安兵衛」であった。今年は一寸足を延ばして何処かの温泉でもと考えています。
(鈴木典久)



CHUGAI

中外製薬株式会社

〒104 東京都中央区京橋2-1-9
TEL(03)3281-6611



株式会社ツムラ

〒102 東京都千代田区二番町12番地7
TEL. 03(3221)0001(大代表)

昭和25年卒業

平成7年のクラス会は9月9日(土)犬吠崎のグランドホテル磯屋で開催。物語8、不明2で今や総員25名。うち13名が集まった。洋上に中秋の名月高く、銚子の海の幸を満喫すれば、旧交歓談は自ずと深更に及んだ。加療中の鈴木(真)・阿出川・水野君の早期完快を祈るとともに、大多忙故に都合がつかねた諸兄には健康第一を願ってやまない。



次回は神奈川県諸兄(幹事:小森・松本宏君)の肝煎りで8年秋頃の予定。全員再会を果たしたいものである。(鈴木昭治郎)

昭和26年卒業

昨年2月末に、畏友山口兄を失いましたが、皆様はお元気の事と存じます。今年の「26あのはな会」は、4月11日、恒例の熱海市山木旅館で開催し、お互いの無事、健康を確認し合いたいと思います。卒後45年を経て、尚現役で活動されて居る人達の事を考え、今年は木曜日を選びました。桜花の下、一夜を温泉につかりながら美酒に酔いたいと思います。奮ってご参加下さい。(福島 靖)

昭和28年卒業(千葉葉二八会)

昨年、二八会は4月23日桑原兄がカナダより帰国した機会に竹橋会館に集まりました。丁度、地下鉄サリン事件のあと、またオウムが事件を起すのではないかと世情騒然としていましたが、多数の出席者がありました。席上、前年のカナダ旅行の写真が披露され、御婦人方を含めての水着姿のカナダ温泉入浴風景など話題を呼びました。今年は世の中静かになって欲しいのですが、二八会は一層賑やかに、盛り上がった集まりを持つことでしょう。(坂口 孝)

昭和31年卒業(千葉葉三一會)

平成7年2月25日に東京大丸で25名が集まり、クラ

ス会を開きました。また、5月20日には、房州鹿野山の仏母寺を訪れ、安井玉峰庵主から、「風信」の爽やかな法話を聞き、会席料理を楽しみ、五月晴れの牧場から緑の山々を眺め、神野寺に三枝夫妻の句碑を訪ねました。さらに、市原市の村越勇名誉教授宅で、温室のランを鑑賞し、珍しいハイビスカスのお茶を御馳走になりました。今年は、鹿児島でクラス会です。

(星 昭夫)

昭和32年卒業

卒業生44名全員が、昨年の3月までに還暦を迎えた。(1名も物故者がいない!)

企業勤務者のほとんどが、定年で退職したり転職した。大学教授は3名で、畠本力君は昨年本学薬学部長に就任した。

クラス会は5年ごとに開催しているが、一昨年から首都圏在中の有志を中心に10数名が、卒業年次に因んで3月2日に集まっている。来年は卒後40周年なので盛大なクラス会にしたい。(片岡久男)

昭和33年卒業

平成7年8月26日、川原湯温泉(群馬県)で恒例のクラス会を開催。出席者22名。幹事上野、塩坪、渡辺。当温泉は首都圏の水がめ「ハツ場ダム」として10年後位には水没するところ。お互いに健勝を確かめ合った。

突然9月3日に石井智君の訃報に接した。彼はTB Sのスポーツアナウンサーとして輝かしい実績を残し、定年直後であった。当会報'94.5にも寄稿している。企業戦士の壮絶の死であった。まことに痛惜の念にたえない。(渡辺 楷)

昭和34年卒業

平成7年7月22日(土)、古くは伊達家の入湯所として知られ、有馬、道後とともに日本三名湯に数えられてきた仙台の奥座敷、秋保温泉「岩沼屋」に女性4名、男性12名が集合。

温泉に入り旅の疲れをとり懇親会。現況報告は60歳を挟んで現役組、定年組、再就職組と話に花が咲いた。

トアイヨ-株式会社

〒104 東京都中央区京橋3丁目1番2号
電話 03(3281)3888

株式会社 常盤植物化学研究所

代表取締役 立 崎 隆
(昭和41年卒)

〒285 千葉県佐倉市木野子158
TEL 043-498-0007

二次会は部屋で深更迄続いた。翌日、朝食後解散。仕事に戻る人、帰郷する人、山寺（立石寺）観光の人と様々。

次回は札幌にて開催予定。

（小林 繁）

昭和35年卒業（珊瑚会）

1995年花咲く4月8日、女性9名男性17名が桜の名所千鳥が淵に近いホテルグランドパレスに集まった。遠くは沖縄から金井（旧姓赤嶺）芳江さんも。長良川の鵜飼見物の前回より5年ぶりのクラス会であった。年の功か近況スピーチが味わい深い。我がクラスもそろそろ第3人生に乗り出す人が増え、変化の多い年頃となったので、珊瑚会を毎年開くと幹事さんの弁。楽しみです。7月7日、小笠原君の訃報に接しました。謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。（塩野谷 博）

昭和36年卒業

昨年7月にクラス会を開催、半数に近い18人が出席。阪神大震災で被災、自宅の建て直しを余儀無くされた林さんの話が主になりました。



当初の御苦労は勿論の事、一年後の今、着工はこれから、職人不足がその理由です。個人レベルでは復興には程遠いそうです。現在の私達、現役活躍の人、主婦しかりの人、仕事と家庭趣味等バランスの人あり、油絵で二科展3回連続入選の馬杉さんは希望の星です。クラス会欠席で体調不良の方、早期回復を祈ります。

（坂本淑子）

昭和37年卒業

平成6年5月に隔年のクラス会を中島基之氏、渡辺綾子さんの首頭取りで東京会館で開催。札幌からは中林（旧姓神酒沢）さん、和歌山からは初参加の神前（旧姓八田）さんが駆けつけ、同級生の澤井教授を含めて総勢26人が積もる話に花を咲かせました。当日、陶芸家をご主人の川原（旧姓高谷）さんから全員に陶器のプレゼントがありました。謝々。

今年はクラス会開催の予定で、伊坂（旧姓野田）さんと私が担当します。卒業34年、クラス会への参加者も固定化しております。未参加の方も是非出席して頂き、旧交を温めようではありませんか。（西沢林蔵）

昭和38年卒業

平成7年10月28日、千代田区二番町のツムラ本社地階の『エラール』で夕食会を開催しました。21名が集まり、Illusion Cocktailの食前酒で歓談後、西洋海鮮料理と、Bourgogne Blanc Leroy (1992) ワインで楽しみました。夕方からの催しでしたので、遠方の方が参加できず残念でした。今年は、オリンピックの年です。恒例の楽しいクラス会を企画したいと思いますので、健康にご留意下さい。



（水野 保）

昭和39年卒業

東海地域在住の今泉（旧姓酒井）絢子さんと大原夫妻が幹事となって、地元名所でクラス会を開いてくれる話が提案され、現実味を増してきています。一昨年の卒業後30周年記念のクラス会が外房で盛大に開催された後なので、昨年9月（東京）のクラス会には出席者が34名中の7名でしたが、楽しい歓談の一時をすごしました。次のクラス会はまた盛大となることでしょう。新年から幹事を藤本君に引きつぎました。（坂井和男）

昭和40年卒業

昨年11月25日（土）に「卒業30周年記念クラス会」を鬼怒川温泉で開催しました。出席者15名（女子9名、男子6名、出席率37%）は予想より少なめでしたが返信率は92%と高く多くの級友の近況が把握できました。型通りの宴会を済ませてからホテルの一室に移動して深夜まで談笑。翌日は晩秋の「龍王岐」（鬼怒川温泉と川治温泉の間にある渓谷）ゆっくり散策して解散。後日欠席者にも集合写真とクラス会名簿を郵送。

（平野武明）

健康を、生みだす力、届ける心。

Yamanouchi

山之内製薬株式会社

〒103 東京都中央区日本橋本町2-3-11 ☎03-3244-3000

吉富製薬株式会社

本社

〒541 大阪府中央区平野町2-6-9

TEL 06-201-1600

東京支社

〒113 東京都文京区湯島1-6-7

TEL 03-5802-0600

昭和41年卒業

卒業30周年を待ち切れず前年祭として、平成7年6月にクラス会を企画した。幹事3人は温泉豊富な栃木県在住。齢50を過ぎて温泉の恋しい年代となり、秘湯として有名な川俣温泉に総勢19名。緑光る渓流のくねくね道を村営バスにゆられて2時間。だんだんと30年前の大学生になっていった。温泉の効能で一段と若返り、しゃべってのんで、日頃のモヤモヤをふき飛ばし、次回の再会を約束し、自分の世界に戻った。さわやかな6月の風の再開であった。(高瀬國男、高瀬千賀子、伊沢輝芳)



昭和45年卒業

薬学部としては変わり種で今は人事部にいる。人事といふとかなり幅の広い領域になるが、採用面接は比較的好きであり、又勉強にもなる仕事である。我々人事の面接は人柄や常識をみさせて戴くのが趣旨であり、主観が入る可能性を否定できない。従ってなるべく多くの者が面接をさせて戴いている。私に関して言えば、「自分の言葉で、自分の生き方や夢を語る人」に好感を持つ。神経は疲れるが、充実した仕事である。(茂木浩司)



昭和46年卒業

今年は4回目の年男、年女の年、昭和でいえば71年、卒業後すでに四半世紀が経過したことになります。関東を離れて暮らすようになって20年、幸か不幸か20数年前とは逆の立場で当地の薬学部勤務しています。教壇に立ち、学生に話かける時にいつも頭に浮かぶのは講義を聞いているかつての自分と教えて下さった各先生の印象的なシーン。自分の話しぶりに恩師の教え方がだぶります。すでに退職された先生もあり、ますます母校が遠くなる今日この頃です。(原田健一)

昭和47年卒業

先ずはおめでたい話から。加藤文男君が同期のトップをきって4月1日付で東邦大学薬学部教授(微生物学)に就任しました。心からお祝いします。森田修君が昨年4月の統一地方選で伊勢崎市議会議員に当選しました。人生なんて分からないものです。8月12日は山口勝人君ご一家遭難10年目で友人相集い御巣鷹山に慰霊登山をしました。山口君は坂本九ちゃんのすぐ隣に眠っており、九ちゃんに音痴だった山口君の歌唱指導をよくお願いしてきました。(上野光一)

昭和51年卒業

医療における薬剤師の立場が変化しつつある現在、千葉大学薬学部でも医療薬学に対応して行くためにいくつかの講義が開講されています。モッチャンこと望月真弓さんがその非常勤講師として教壇に立たれています。一度聴講してみたいですね。

訃報が届いています。昨年8月井上(旧姓渡辺)純子さんが亡くされました。御冥福をお祈りいたします。今年は卒業後20年という節目です。そろそろクラス会でも開催されるでしょうか?(渡辺敏子)

昭和55年卒業

平成8年2月10日、本当に長らくお待たせの同期会を開くことができました。所は新宿の歌舞伎町「月亭」出席者は阿部(西田)、牧島(原島)、横浜(竹村)、坂井(堀)、犬飼(長島)、井上、加藤、久保(新保)、近藤(小出)、斉藤、奥組、西澤(川名)、宮良(丸山)、山本(広瀬)、幹事の小山、朝比奈(金子)の16名でした。懸川君は風邪のため無念の?欠席でした。卒業してあっと言う間に15年(幹事になって10年、)、皆の見分けがつかなくなったらどうしようと恐れていましたが、外見上も皆あまり変わっていないし、しっかり者の人はやはりしっかり者だし、ミョーな人はやっぱりミョーな人だし(特定の人を指しているわけではあり



わかもと製薬株式会社

常務取締役 前田 孚
(昭和35年卒)

〒103 東京都中央区日本橋宝町1-5-3
電話 03-3279-1275

ヒラタ薬局グループ

薬剤師募集中

代表 平田兵治(昭和16年卒)

〒260 千葉市中央区今井2-4-4
TEL 043-261-0855

ません)、しゃぶしゃぶを食べながら楽しい時間を過ごすことができました。最後に次回の幹事を西澤さん、(多数決で)懸川君にお願いすることに決定し、2次会に向かったのです。皆さん暖かい協力ありがとうございました。次回も楽しみです。(朝比奈真由美)

平成4年卒業

平成4年卒業生、平成6年修了生合同で、昨年に引き続き温泉旅行同窓会を行いました。9月30日～10月1日に湯河原温泉で、約40名その参加者が集い、盛大な宴会が催されました。また今年も夜通し楽しんだ様でした。幹事だった合成の皆さん、御苦労様でした。来年は薬剤担当なのでよろしく願います。

今年薬友会名簿が改訂されて私達同級生のページを見ると、既婚者が2割を越えようとしていました。→私達はまだ若い?それとも…。(木村友美)

平成6年卒業

時は正月。しかし修士2年ともなると、「修論を提出した2月の“旧正月”こそ本当の正月だ。」ほとんどの人は学生生活のラストスパート。みんな正月気分など忘れて修論にとりこんでいます(みんなではないか)。ところで昨年は結局1度も同窓会を開くことができなかったで、今年はどこかに宿でもとって、みんなで一晩飲みあかししましょう。最後に、昨年10月28日曾根さんが御結婚なさいました。おめでとうございます。(護守 晃)

平成7年卒業

毎日が忙しいと月日の流れは早いもので、私達が薬学部を卒業してから間もなく1年が過ぎようとしています。社会に出て頑張っている人達はそろそろ千葉大学での生活が懐かしく思いはじめて、誰が同窓会を企画するのだろうなどと考えている人も多いかもしれません。「みんなと是非会いたい!」といった想いが熟した頃に全員で再会できることを楽しみにしています。その際には皆様の御協力をお願い致します。(宮山 崇)

平成7年度4年生

4年生になって、みんながそれぞれの研究室に配属となりました。それでも前期は午前中が授業なので顔をあわせる機会が多かったのですが、最近では他の研究室の人と会うことはめったにありません。3年の実習の頃は、毎日一緒に実験していたことを思うと少し寂しい感じもしますが、それぞれが自分の研究室で頑張っていることでしょう。

4年生は学部最終学年ということで就職活動や入試があり、みんないそがしかったと思います。さらにはこれから国試があります。その前に卒論もあるし…。薬学部で気をめくひまがないと感じる今日この頃です。(伊藤雅夫)

平成7年度3年生

昨年度と打って変わって多忙だった1年も、もうすぐ終わろうとしています。並み居るテスト、実習、レポートの大波小波を押し分け、かき分け、ようやくここまで辿り着きました。残るは最後の皆、後期期末テストのみです。楽しい春休みを過ごせるよう、皆さんもう一踏ん張りしましょう。

最後に、元担任の茂川先生、御結婚おめでとうございます。末永くお幸せに。(湯田理恵子)

平成7年度2年生

蟻が1列に並んでいるよ だから雨になるの 蟻は雨が降る前に1列になるのさ

私の友達の何人かが、今年他学部を受験し直すという。2年間が過ぎ、薬学とは何かがおぼろげにも分かってくる時期なのだろう。3年になれば、自分の将来という難題がてぐすね引いて待っているに違いない。

私達は、勉強・サークル・アルバイト等で多忙な毎日。でも、たまには忙しさから少し目を離し、蟻を見余裕を持ちたい。(松浦奈緒子)

平成7年度1年生

千葉大学薬学部に入學してはや1年が過ぎようとしています。この1年を振り返ってみて、本当にあっという間でした。春祭・大学祭とみんな一致団結して大成功を収めたこともあれば、大学の講義は難しいと感じた1年でもありました。

このクラスはみんな仲良く、ワイワイガヤガヤと楽しいので、これからも勉学に、また他のことに対して一生懸命頑張っていけると思っています。いや、頑張りたいです。(山本尚志)

労働大臣許可 社団法人 埼玉県薬剤師会 薬剤師無料職業紹介所

求職の受付日 火・水曜日 (ただし、祝日、年末年始は除く)
求人・金曜日
受付時間 9:30～11:30及び13:00～16:00
〒330 埼玉県大宮市土呂町1丁目50番地4
TEL 048-653-5261
FAX 048-653-5252

支部だより

東京支部

平成7年11月17日(金)隔年開催の総会を日本橋倶楽部で開催した。新しい役員になって初めての総会である。会員に多数出席していただくにはどうしたらよいか種々検討した結果、小川通孝氏(S34年)と相談し、日本薬剤師研修センターの認定研修の一環にした。敝本学部長をはじめ、厚生省黒川達夫氏(S48年)北里大学病院望月真弓氏(S51年)の講師で卒業研修を行った。医薬品投与の現状を興味深く聴くことが出来た。研修後、懇親会で、旧交を温め楽しい思い出となった。出席者67%で、40年、50年代卒業の方々が相当数出席していただき、会を一層盛りあげた。今後も会員の皆様に興味を持っていただける企画を考えたい。(渡辺 楷)

神奈川支部

日7年9月7日、2年ぶりの薬友会神奈川支部の会合に敝本新学部長をお招きいたしまして、「講演会」



(日本薬剤師研修センター認定講座)と「懇親会」を開きました。51名もの多くの会員が参加され、

●大学の近況・薬学6年制を考える(薬学部敝本学部長)●神奈川県村瀬薬務課長の現状(神奈川県村瀬薬務課長)●横浜市大の処方箋発行の問題点(横浜市大病院城武薬剤部長)の3講座に、一同これからの医療ニーズの変化に伴う薬剤師の役割を改めて認識するとともに、さらなる研鑽の必要性を痛感いたしました。懇親会に渡辺東京支部長をお迎えし、歓談・校歌斉唱等楽しい一時を過ごし、再会を約しながら会を閉じました。(村瀬一郎)

鹿児島支部

鹿児島から千葉薬に学んだ人は、古くは大正2年卒の梅北雄造氏(故人)にはじまり、数はすくないが連続と続いている。卒業後は中央に停まる人が多く、現在、鹿児島在住が明らかなのは、昭和28年の吉永経久氏と31年の小生の2人である。

本年秋は31年卒が卒後40周年のクラス会を鹿児島の指宿、霧島の温泉地をめぐるながら行うことにしている。吉永先輩のクラスも近い将来鹿児島でされるらしい。

当地は風光明媚で、気候は温暖、世界遺産の屋久島や歴史の島種子ヶ島も高速船で巡れるので、クラス会の記念大会には格好の地であると思う。

鹿児島支部(?)はメンバーは少ないが、当地での各学年のクラス会をお手伝いすることが、私共の同窓会活動と心得ておるので、各学年、大挙して来鹿されることを歓迎します。(検見崎哲夫)

るのはな山岳会

平成8年の山行は1月21日の奥多摩三頭山(1528m)で始まった。大寒の入、とは思えない比較的暖かな1日で、11名が参加し前日降った新雪を踏んでの気持ちのよい山歩きだった。今年も1ヶ月1回の山行を予定しているが、春秋2回は毎年関西方面からの参加者も含め、温泉に1泊して旧交を温めることにしているので目下適当な山と温泉を物色中である。又7月初旬には有志で北海道の利尻富士へ登り、サロベツ原野のお花畑を訪ねたいと考えている。とにかく今年も事故のないように気をつけて楽しい山行を続けていきたい。(写真は平成7年11月秋季山行・思親山山頂にて)(吉田智子)



亥鼻会

亥鼻ヶ丘で3年間千葉薬専に学んだ卒業生は、古色蒼然たる校舎、医学部との桜の生えた連絡道路、病院坂などに堪らない郷愁を感じる。

岩城謙太郎氏を中心に、平成5年1月27日発起人会を開催。昭和10年から26年の千葉薬専卒業生を会員の対象にした。

その後次のとおり会合を重ねている。

	日時	会場	講演者	出席人数
第1回	5.3.24	日本橋クラブ	—	43
2	5.10.15	"	山崎薬学部長	57
3	6.3.24	"	荒木勉理事	46
4	6.10.17	"	渡辺教授	48
5	7.3.29	"	増先国夫氏	59
6	7.10.17	"	敝本学部長	38
7	8.3.25(予定)	"	共立薬科大学長	

以上のとおり、年2回日本橋クラブで12時~14時、会費5,000円で開催している。

毎回40名前後の会員が集まり、懐旧談や意見交換に花を咲かせている。

なお平成7年3月15日に「亥鼻会文集」を刊行した。会員40名の投稿があった。(藤沢栄一)



池田仁三郎先生ご逝去を悼む

—猪之鼻学舎飾り屋根を遺されて—

千葉大学名誉教授、薬友会顧問池田仁三郎先生には平成8年3月13日75才で永眠されました。脳出血で4日間ご入院後の急逝で、その数日前には電話で元気なお声を聞いた職員もおり、あまりにも急な出来事で、哀惜の念この上ないものがあります。

池田先生は戦雲急を告げる昭和16年に千葉医科大学附属薬学専門部をご卒業、厚生省傘下の研究所勤務の後、昭和21年母校薬学専門部助教授として迎えられ、故宮木高明先生の薫陶を受けられて教育・研究に従事されることとなりました。昭和38年に教授に昇任され、薬品製造学講座を主宰されました。昭和61年3月に停年退官され、名誉教授になられて、平成6年秋には勲三等旭日中綬章を受章されました。

この間、先生は専門部から薬学部への昇格、大学院修士課程、博士課程の創設および薬学部校舎の亥鼻から西千葉への移転など薬学部の今日に至る歴史的転換期のすべての過程に計り知れない大きな貢献をされました。薬友会の今日あるのも、薬学部の生き字引であられた先生のお陰であるといっても過言ではありません。

先生のご研究は、ビタミンA、Dの合成研究、日本住血吸虫中間宿主の宮入貝殺滅剤開発、合成纖維ナイロン原料合成、農薬開発等々、国民生活の時代ごとの要請に応える重要課題であったことがうかがわれます。

東京日本橋の産で、府立三中ご出身の先生の、歯切れの良いべらんめい調のご発言は、講義、教授会は勿論の事大学本部の会議でも、時に厳しく時に優しく、常に頼りになる羅針盤で、今も鮮やかに私たちの耳に蘇ります。先生のご慈愛は、先生が中心となって再建された、奥様の碑文字のある猪之鼻学舎飾り屋根とともに永遠に薬学部に伝えられるものと信じます。

千葉大学薬学部教授 渡辺 和夫

1995年度 卒業生の進路

学 部 進 学：千葉大学大学院35名、他大学大学院3名
就 職：三共4名、三井製薬工業3名、杏林製薬2名、日本ベーリンガー2名、その他企業17名、
病院2名、公務員1名、その他3名
修 士 進 学：千葉大学大学院5名、他大学大学院2名
就 職：東レ3名、帝國薬器製薬3名、協和発酵2名、トーアエイヨー2名、その他企業25名、
公務員1名、病院・薬局3名、その他3名
博 士 就 職：3名 その他：6名

1996年度 薬学部入学者出身校一覧

26名 千葉県 (千葉6名、船橋5名、千葉東4名、東邦大学附属東邦2名、渋谷教育学園幕張、検見川、成田、八千代、八千代松陰、薬園台、安房、佐倉、東葛飾)
13名 東京都 (桜蔭3名、共立女子2名、開成、お茶の水女子大附属、国立、桜美林、城北、日大豊山女子、吉祥女子、豊島女子)
7名 神奈川県 (桐蔭学園2名、藤枝東、厚木、横浜緑ヶ丘、光陵、平塚江南)
6名 埼玉県 (城北埼玉2名、浦和第一女子、川越女子、聖望学園、西武学園文理)
5名 栃木県 (栃木女子2名、足利女子2名、宇都宮女子)
4名 長野県 (長野、上田、須坂、松本深志)
3名 新潟県 (新潟、長岡、高田)
愛知県 (時習館2名、千種)
宮崎県 (宮崎大宮、都城泉ヶ丘、延岡東)
2名 岩手県 (盛岡第三2名)
山形県 (山形西、米沢興譲館)
福岡県 (東筑、明治学園)
沖縄県 (昭和薬科大学附属2名)
山口県 (徳山、宇部)
1名 群馬県 (太田)、静岡県 (磐田南)、福島県 (安積女子)、茨城県 (江戸川学園取手)、青森県 (青森)、秋田県 (秋田南)、山梨県 (市川)、岡山県 (岡山大安寺)、奈良県 (郡山)、愛媛県 (西条)、大阪府 (岸和田)

職員の異動 (1995. 5～1996. 4)

95. 5. 16 真山香代子 教務職員採用 (微生物薬品化学)
95. 7. 1 山崎 真巳 講師 昇任 (遺伝子資源応用)
豊田 英尚 助手 昇任 (薬効・安全性学講座)
95. 8. 16 石井 永 教授 休職 (薬品製造学)
95. 9. 1 濱田 康正 教授 採用 (薬化学、名古屋市立大学薬学部より)
野路 征昭 助手 採用 (遺伝子資源応用、理化学研究所より)
95. 9. 10 烏澤 保廣 講師 辞職 (薬品合成、大塚製薬株式会社へ)
95. 10. 1 中山 祐治 教務職員採用 (膜機能学、サンド薬品株式会社より)
96. 1. 1 原 修 講師 転任 (薬化学、名古屋大学薬学部より)
96. 1. 16 山口 明人 助教授 転出 (微生物薬品化学、大阪大学産業科学研究所へ)
高山 廣光 助教授 配置換 (生体機能性分子)
池上 文雄 助教授 配置換 (薬化学)
96. 3. 31 笈川 節子 助教授 辞職 (薬品物理化学)
廣瀬 聖雄 教授 停年退官 (生化学)
佐藤 哲男 教授 停年退官 (薬物学)
96. 4. 1 小林 弘 教授 昇任 (生化学)
小原 康治 助教授 採用 (微生物薬品化学、東京薬科大学薬学部より)
西田 篤司 助教授 採用 (薬品合成化学、北海道薬科大学薬学部より)
星野 忠次 講師 採用 (薬品物理化学、早稲田大学理工学部より)
本橋 弓子 助手 採用 (薬化学)

薬友会より

平成8～9年 主な活動予定

- 8年5月 会報6号発行
 7月 役員会・総会・生涯教育セミナー
 12月 役員会・常任委員会
 9年5月 会報7号発行
 7月 生涯教育セミナー
 12月 役員会・常任委員会

平成7年 活動報告

- 3月 新入生入会案内(終身会員98名入会)
 5月 会報5号発行(4,350部)
 7月 第4回生涯教育セミナー
 (千葉大学けやき会館)
 「高齢社会と薬学」
 (講師4名、参加者253名)
 12月 役員会・常任委員会(出席45名)

その他の活動のお知らせ

昨年に引き続き、ラジオ短波「薬剤師生涯研修用教材」を利用し、千葉大学薬学部教官と共に薬学・薬剤師教育について体系的・継続的に学習する「卒業教育研修講座」を開催致します。研修テーマ「医薬品情報と服薬指導-Pharmaceutical Careを考える-」。日時：平成8年4/20、5/25、6/22、7/27、8/24、9/28、10/26、11/16、12/14、平成9年1/18。いずれも土曜日。午後2～5時。場所：千葉大学薬学部百周年記念館。参加費：1万円。参加希望の方はご連絡下さい。(担当：上野光一 Tel (043) 290-2920)。なお、本講座は日本薬剤師研修センターの集合研修会の認定を受けますので、参加者には1回につき1単位の受講シール(7月より2単位の予定)が発行されます。

資金協力のお願い

本会の活動を益々盛んにするために、会員の皆様に終身会員へのご加入とご寄付をお願いしております。

- 1) 終身会員。会費2万円。昭和48年に開設。(現在50%加入) 会員名簿を無料で配布します。
 - 2) 寄付(1口2千円から)。特に、終身会費が1万円であった皆様、ご協力をお願いします。
 - 3) 会報、名簿への広告掲載にもご協力下さい。
- 申込みは、同封の郵便振込用紙をご利用下さい。

新会員名簿(平成7年版)発行のお知らせとお詫

名簿委員会では、昨年末平成7年版の新名簿を発行しました。新名簿の特徴は、(1)勤務先電話番号の記載、(2)会社別人名索引の作成、(3)A4版に拡大、等です。住所確認等に会員皆様のご協力を頂いたことに厚く御礼申し上げます。既に、終身会員の方へは発送しまし

たが、数冊に乱丁(p217～p232:欠落、p233～p249:重複)のあることがわかりました。併せて、校正の不手際で記載内容に誤りのある方がいらっしゃることもわかりました。お手元の旧名簿が乱丁または記載内容に誤りがある場合は、同封の連絡カードでお知らせ下さい。乱丁本につきましてはお取り替え致します。ご迷惑をおかけした方々に深くお詫び申し上げます。また、今後住所変更等が生じた場合は、連絡カード(名簿綴じ込み)またはFAXにて速やかにご連絡下さい。薬友会への連絡の際は、1)氏名のふりがな(索引作成上とても大切です)、2)勤務先の正式名称と電話番号(新しく導入された項目)も、忘れずにご記入くださるようによりお願い致します。氏名のふりがなや勤務先の正式名称が正しく登録されませんと、各索引に正しく記載されませんのでご注意願います。

新会員名簿(平成7年版)頒布のご案内

一部 5000円(会員価格)

終身会員以外の方で希望者は名簿係にお申込み下さい。

薬友会宛送金のご案内

郵便振替：00150-5-551796「千葉大学薬友会」
 銀行振込：千葉銀行西千葉支店、普通預金口座
 2232357「千葉大学薬友会」

できるだけ郵便振替でお願いします。銀行振込の場合は同時にはがき又はFAX(043-255-1574)で送金内容をお知らせ下さい。

各種委員会役員名簿

- 総務委員会 ○澤井哲夫、高山廣光、仲佐啓祥、村上泰興(S36)、立崎 隆(S41)、野中浦雄(S42)、今成登志男(前委員長：アドバイザー)
 財務委員会 ○高山廣光、澤井哲夫、仲佐啓祥、村上泰興(S36)、立崎 隆(S41)、野中浦雄(S42)、藤沢栄一(S13：アドバイザー)、笈川節子(前委員長：アドバイザー)
 名簿委員会 ○仲佐啓祥、澤井哲夫、高山廣光、村上泰興(S36)、立崎 隆(S41)、野中浦雄(S42)、関根利一(前委員長：アドバイザー)
 事業委員会 ○相見則郎、堀江利治、池上文雄、小林 弘、関 宏子、懸川友人、大川幸子(S32)、山田和美(S32)、小川通孝(S34)、成松鎮雄(前委員長：アドバイザー)
 会報委員会 ○渡辺和夫、堀江俊治、額賀路喜、渡辺敏子、石井伊都子、上野幸夫(S33)、加藤文男(S47)、角田範子(S52)、網 のぞみ(4年)、宮崎裕代(4年)、五十嵐一衛(前委員長：アドバイザー)

(○印：委員長)

第5回千葉大学薬友会生涯教育セミナー（宮木高明記念セミナー）開催のお知らせ

千葉大学薬友会の生涯教育セミナー（宮木高明記念セミナー）も回を重ねて今回で5回目となります。今年は総会と同日開催で、午前中の総会（薬学部第2講義室）に続き、午後1時から、大学正門脇の「けやき会館」でのセミナー開催となります。この機会にお一人でも多く、面目一新した母校において頂き、セミナーにご参加いただきたくご案内申し上げます。

今、薬剤師の社会的責務の重大性が広く認識され、教育の高度化が叫ばれています。このことはまた、関連する薬学、医学の基礎教育、基礎研究の重要性が今までも増して高まっていることを意味します。大きく展開しつつある薬の世界の動向を、様々な立場の講師が平易に解説いたします。

1) メインテーマ「薬物療法：来た道、行く道」

2) 演題と講師

・薬友会会長挨拶 畀本 力（千葉大学薬学部長）

1. 植物成分の利用・新時代

立崎 隆（常磐植物化学研究所代表取締役）

2. 種痘からアレルギーまで

徳久剛史（千葉大学医学部附属高次機能制御研究センター教授）

3. 適切な薬物療法と病院薬剤師

中村 均（千葉大学医学部附属病院薬剤部副部長）

4. 「宮木高明記念講演」調剤論

堀岡正義（元九州大学教授、元日本大学教授）

3) 日 時：平成8年7月6日（土）午後1時～5時

引続き同会場ミキサー（懇親会）を行います。

4) 場 所：千葉大学大学ホール（けやき会館）

千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学西千葉キャンパス内

（JR西千葉駅北口より南門経由で徒歩7分、または京成電鉄みどり台駅より正門経由で徒歩6分）

5) 参加予約の方法：同封の申込用紙に、参加者氏名、住所、卒業年次、職業をご記入の上、下記郵便振替口座に参加費をお振込みください。

00150-5-551796 千葉大学薬友会

参加予約締切：平成8年6月21日（金）

6) セミナー参加費：1,500円（予約時）

2,500円（当日、非会員）

7) ミキサー参加費：2,500円（予約時）

3,000円（当日、非会員）

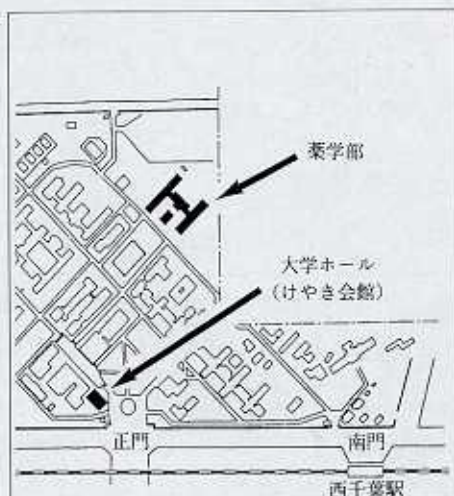
8) 連絡先

〒263 千葉市稲毛区弥生町1-33

千葉大学薬友会事業委員会（担当 相見則郎）

TEL&FAX 043-290-2901 FAX 043-255-1574

なお本セミナーは日本薬剤師研修センターの認定セミナーとなります。



千葉大学薬友会総会のお知らせ

日 時：平成8年7月6日（土）

午前11時～12時

場 所：千葉大学薬学部第2講義室

課 題：1. 事業報告 2. 会計報告 3. 役員改選
4. 事業計画 5. その他

懇親会は同日開催の生涯教育セミナーのミキサーと合同です。セミナーの方にお申込下さい。

編集後記

花に嵐のたとえのように、本号の印刷段階で池田仁三郎先生の訃報が入りました。同窓会・薬友会をこよなく愛された先生の遺志を大切にしていきたいと思えます。本号は千葉薬のアカデミズムと国際化を軸とする方針で臨みました。一方で会員の活動状況もできるだけ盛り込みました。評判の映画の題名を頂戴した「Shall we ダンス？」もその一つ。とにかく有意義で楽しい会報を心掛けたつもりです。名刺広告をはじめいろいろと援助を頂いた会員諸氏に心から感謝致します。

会報委員

渡辺和夫（委員長）、渡辺敏子、堀江俊治、石井伊都子、額賀路嘉、上野幸夫（S33）、加藤文男（S47）、角田範子（S52）、網のぞみ（院生）、宮崎裕代（院生）